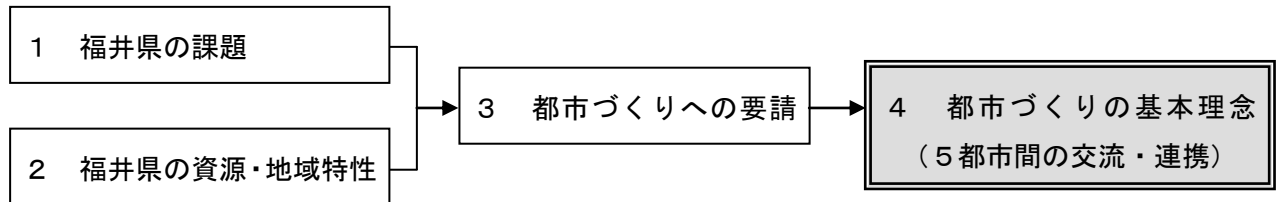


第3章 都市づくりの基本理念

解決すべき「福井県の課題」と、今後のまちづくりに活かすべき「福井県の資源・地域特性」から「都市づくりへの要請」を整理し、「都市づくりの基本理念」を設定します。

さらに、「都市づくりの基本理念」の実現に向け、広域的な視点から見た「福井県の目指す都市構造」を設定します。



1 福井県内都市の課題

近年の人口、産業、市街地などの動向や社会経済情勢の変化から導き出される、解決すべき「福井県の課題」を整理します。

(1) 人口、産業の動向

【近年の動向、社会経済情勢の変化】
<ul style="list-style-type: none">・人口が減少することにより、空き建物や空き地が増加するとともに、都市施設の遊休化が進行し、公共交通機関や道路、公園などの維持が困難になりつつあります。・人口減少が著しい地域では、店舗や医療機関が減少するおそれがあり、人口の減少に伴い活力が低下し、限界集落の発生、防犯性の低下など、地域コミュニティの喪失が懸念されています。

課題 1. 人口減少・超高齢社会における都市活力の低下

今後の人口の減少が確実で、経済活動の急激な好転の可能性も低い中で、いかに都市としての活力（公共サービス、産業活動、地域社会活動等）を維持していくかが課題となっています。

(2) 市街地の動向

【近年の動向、社会経済情勢の変化】

- ・ 中心市街地における居住人口、事業所数は減少傾向にあり、中心市街地の空洞化が続いています。
- ・ 自動車利用の進展を背景に、郊外（非線引き都市計画区域の用途地域外）での開発が進み、低密度な市街地の拡大が進んでいる地区がみられます。

課題 2. 中心市街地の再生の遅れと拡散型都市構造の進展

各市町で、中心市街地の活性化に向けた各種取り組みが進められていますが、まちなか居住等の目標値の達成には至っておらず、中心市街地の再生の遅れや賑わいの停滞が課題となっています。また、市街地の一部では、商業施設の撤退による買物難民の発生等の新たな課題が懸念されています。

郊外での開発は、都市運営コストの増大や公共交通の効率性と利便性の低下、中心市街地の活力停滞の助長等の問題を引き起こしており、拡散型の都市構造の進展が課題となっています。

(3) 災害、安全に関する意識の動向

【近年の動向、社会経済情勢の変化】

- ・ 近年、日本の各地で局所的な豪雨が多発化しており、県内でも平成 16 年に福井豪雨により甚大な被害が発生しています。地球規模で進行する温暖化に伴う気候変動がゲリラ豪雨の要因の一つと考えられており、今後とも警戒が必要となっています。
- ・ 市街地では、老朽化した木造建築物等が密集し、都市基盤が十分に整備されていない危険な密集市街地がみられます。また、一部の都市では、河川整備や土石流対策等の災害対策が十分になされていない地域において市街化が進みつつあります。
- ・ 東日本大震災をはじめとする自然災害の発生等を契機として、安全・安心に関する意識、地域コミュニティに関する意識が高まりつつあります。

課題 3. 災害の危険性の増大

集中豪雨の増加等、地球規模での気候の変動もみられることから、水害や土砂災害等の危険性の増大が課題となっています。

(4) 環境の動向

【近年の動向、社会経済情勢の変化】

- ・産業の発展に伴い石炭や石油等化石燃料を大量に消費してきたことにより、地球温暖化や資源の枯渇等の環境問題が深刻になっています。
- ・都市化の進展による生物の生息・生育環境の悪化等により、多くの希少種の存続が脅かされる等、生物多様性が減少しています。
- ・過度なクルマへの依存は、渋滞の発生や CO₂ 発生量の増大など地球温暖化の進行を助長するおそれがあります。

課題 4. 都市活動に伴う環境の悪化

郊外などにおける新たな開発や都市活動に伴う、貴重な生物の生息地や優良農地の減少により、これまで培われてきた良好な環境の悪化が課題となっています。

(5) 日常生活圏の動向

【近年の動向、社会経済情勢の変化】

- ・情報通信技術や自動車利用の進展に伴い、生活圏の広域化が進んでいます。
- ・平成 18 年の地方分権改革推進法の施行に伴い、国や県から市町村への権限委譲が進み、地方の自由度が拡大するとともに、身近なまちづくりにおける自治体の果たす役割の重要性が高まりつつあります。

課題 5. 地域間での格差拡大

生活圏の広域化、地方分権の進展により、地域間の格差が一層拡大するおそれがあることが課題となっています。

2. 福井県の資源・地域特性

福井県が所有している、今後のまちづくりに活かすべき資源や地域特性、およびこれまでのまちづくりを通じて形成されてきた豊かな生活環境について整理します。

6. 歴史・文化・産業・自然などに立脚した豊かな環境、景観資源が豊富

都市的な開発が進む中でも、それぞれの地域固有の産業・歴史・文化・自然を背景として形成されてきた豊かな環境、景観資源が豊富に残されており、環境に対する住民の意識も醸成されつつあります。

○自然資源：国立および国定公園、名勝、天然記念物、ラムサール条約湿地

○歴史、文化、産業資源：文化財（史跡、名勝、建造物）

宿場町、城下町、湊町としての面影を残す歴史的街並み
越前和紙、漆器等の伝統産業が息づく集落

○景観資源：福井ふるさと百景



■ 霊峰白山



■ 福井城址



■ 坂井平野



■ 敦賀港



■ うるしの里 河和田



■ 小浜西組地区

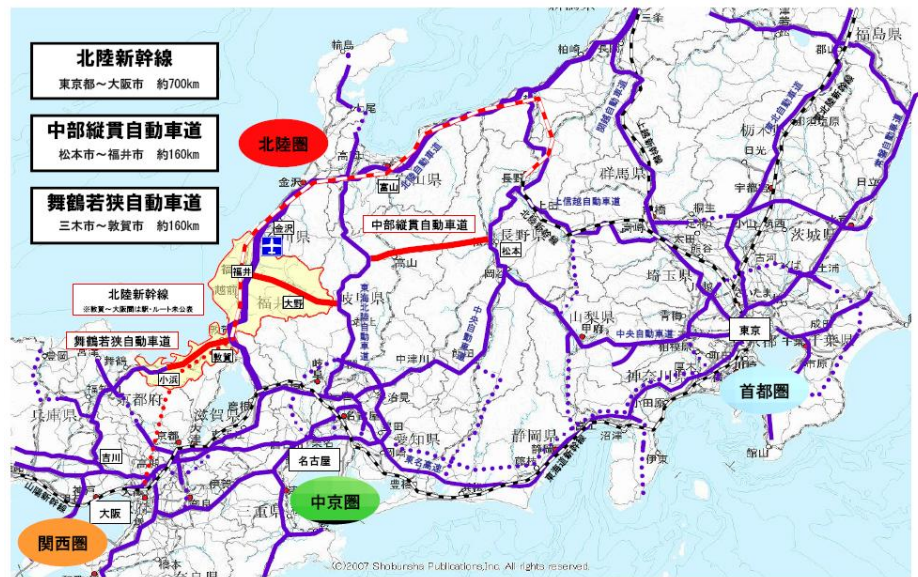
(出典：福井ふるさと百景)

7. 国内、アジアにおける地理的な優位性

福井県は日本列島の真ん中に位置し、アジア大陸とは日本海を挟んで対岸に面しています。直線距離 200km の圏内には、広域的な連携を行っている北陸信越、中部、関西各圏の主要都市が立地する好位置にあり、「アジアの中の福井」の視点でとらえると、日本海側最大級の国際ターミナルが完成した敦賀港があり、アジアと関西・中京経済圏、そして太平洋とを結ぶ結節点に位置しています。

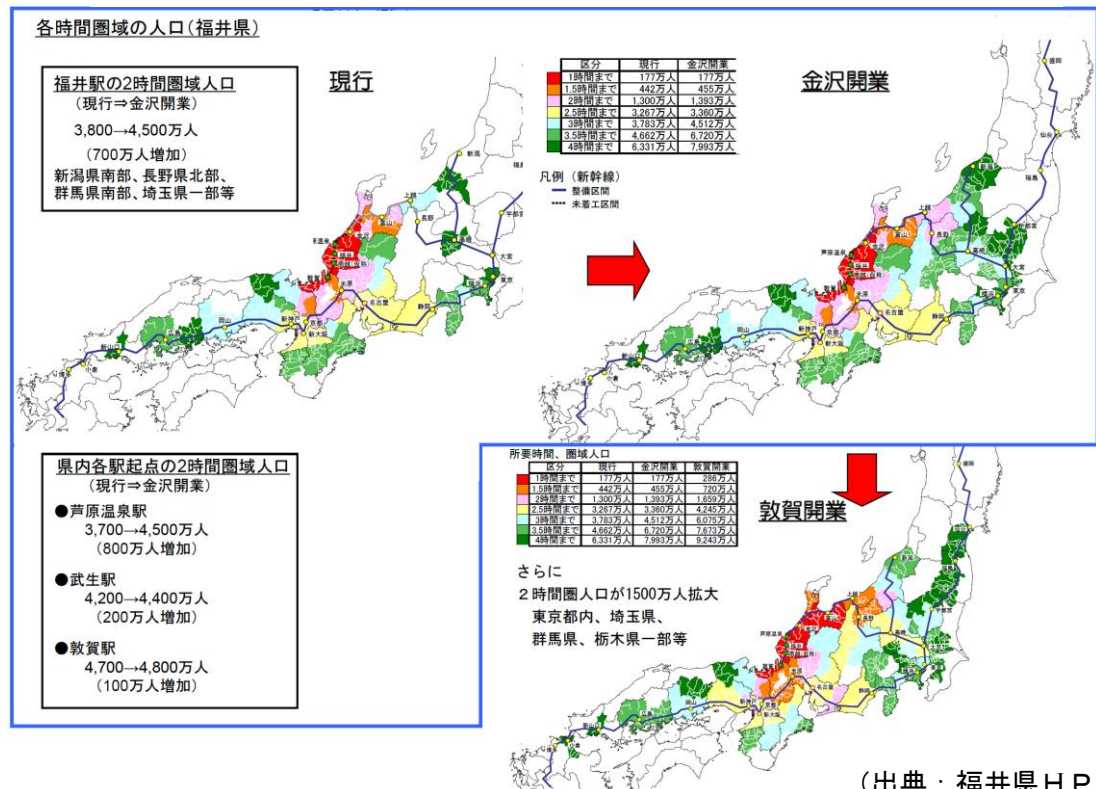
今後、北陸新幹線の整備、舞鶴若狭自動車道や中部縦貫自動車道の高速交通体系の整備進捗により、三大都市圏へのアクセスが格段に向上し、福井県の国内における地理的優位性は飛躍的に高まります。

福井県から伸びる高速交通ネットワーク



(出典：福井県民の将来ビジョン)

北陸新幹線の開業による2時間圏域の居住人口変化



(出典：福井県HP)

8. 地場産業、伝統産業の優れた技術が集積する「ものづくり先進県」

繊維産業や、全国の眼鏡枠生産の9割以上を占める眼鏡産業をはじめ、漆器（越前漆器、若狭塗）、越前和紙、越前焼、越前打刃物などの伝統的産業において独自の技術が受け継がれ、全国有数の「産地」として活躍しています。

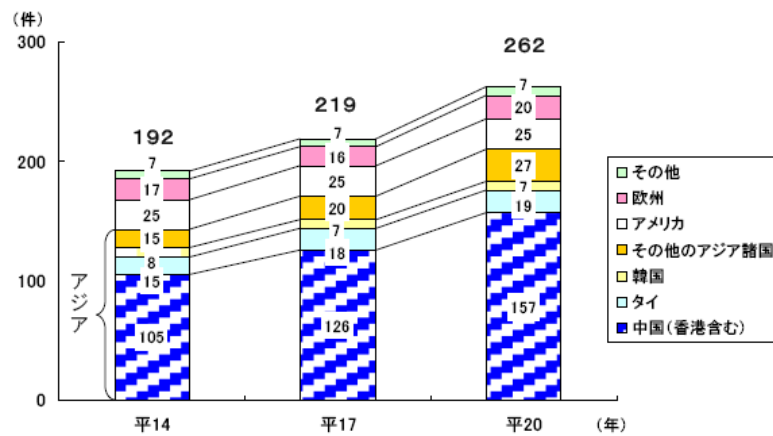
また、アジアを中心として、海外に販路開拓を進めています。

		品名	出荷額 (百万円)	全国 順位	全国に占める割合
繊維 (絹・人絹)		羽二重類(交織を含む・広幅のもの)	990	1位	39.9%
		ビスコース人絹織物	1,068	1位	52.4%
		アセテート長繊維織物	400	1位	43.1%
		ポリエステル長繊維織物	17,688	1位	41.2%
ニット		ニット製スポーツ用上衣	8,970	1位	32.7%
		ニット製スポーツ用ズボン・スカート	4,976	1位	34.0%
染色・整理		ニット・レース染色・整理	7,590	1位	44.4%
レース ・ 繊維雑品		編レース生地	4,409	1位	22.8%
		細幅織物	13,267	1位	33.1%
紙		手すき和紙	559	1位	24.0%
その他		その他の界面活性剤	9,716	1位	18.2%
プラスチック 製品		その他のプラスチック異形押出製品	26,803	1位	19.6%
眼鏡		眼鏡	1,916	1位	48.7%
		眼鏡枠	41,010	1位	95.8%
		眼鏡の部分品	7,521	1位	96.4%
漆器		漆器製台所・食卓用品	4,213	1位	38.8%

*全国順位は当該事務所が3つ以上ある都道府県の出荷額順位

(出典：平成23年版一目でわかる福井のすがた)

県内企業の海外拠点数の推移



出典：平成20年 福井商工会議所アンケート

(出典：福井県民の将来ビジョン)

9. 健康長寿で暮らしやすい生活環境や都市基盤、人のつながり・絆

福井県は、平均寿命が全国トップクラスの健康長寿県であり、法政大学が発表した幸福度ランキングで日本一に輝くなど、全国有数の暮らしやすい生活環境を有しています。

また、都市公園面積などの都市基盤の整備水準も高く、普通会計の歳出に占める投資的経費の割合は全国で1位となっています。

更に、持ち家比率、持ち家住宅の延べ面積についても全国上位であり、ゆとりある住環境の整備が進んでいます。また、三世同居率の高さなどから家族のつながりや絆がしっかりと残されていると考えられます。

■ 福井県が上位にランクされる主な指標

指 標	順位	福井県	全国	出 典
平均寿命（男性）	4	79.47 歳	78.79 歳	平成 17 年都道府県生命表
平均寿命（女性）	11	86.25 歳	85.75 歳	平成 17 年都道府県生命表
幼稚園在園者数 （教員 1 人当たり）	46	9.64 人	14.36 人	平成 21 年学校基本調査報告書
青少年教育施設数 （人口 100 万人当たり）	2	18.5 所	8.8 所	平成 20 年社会教育調査報告書
救急告示病院・一般診療所 数（人口 10 万人当たり）	1	7.8 施設	3.4 施設	平成 20 年医療施設調査・病院報告
持ち家比率	3	77.4%	61.1%	平成 20 年住宅・土地統計調査
持ち家住宅の延べ面積	2	172.6 ㎡	122.6 ㎡	平成 20 年住宅・土地統計調査
三世同居率	2	17.6%	7.1%	平成 22 年国勢調査
投資的経費の割合	1	24.7%	15.2%	平成 20 年地方財政統計年報
都市公園面積	6	13.67 ㎡/人	8.90 ㎡/人	平成 20 年都市公園等整備現況調査

3. 都市づくりへの要請

a 暮らしやすさや優れた技術力を活かした地域社会の維持・活性化

暮らしやすい生活環境や優れた技術力、地理的な優位性などの福井県独自の資源や特性を活用して、地域社会を維持し活性化させていくことが求められています。

b コンパクトで活力のある市街地を中心とする都市構造の構築

都市運営コストの増大や環境問題等に対応するため、低密度な市街地が拡大する拡散型の都市構造から、活力のある中心市街地を中心とする都市構造への転換が求められています。

c 災害に強い安全・安心な都市づくりへの対応

安全・安心に関する意識、都市における災害の危険性が高まる中で、全ての県民が住みなれた地域で安全に安心して住み続けられる都市づくりへの対応が求められています。

d 計画的な施設の整備と高水準な既存ストックの有効活用

暮らしやすさや幸福度日本一に代表される高水準な既存ストックを有効活用しながら、不足する施設については計画的に整備を進めることが求められています。

e 地域コミュニティを活かした住民参加、協働によるまちづくり

大規模災害を契機に地方自治体、地域コミュニティの果たす役割の重要性が見直され、地域に残された人のつながりや絆、支えあいの仕組みを活かした、住民参加、協働によるまちづくりを進めることが求められています。

f 誰もが利用しやすく、環境にも優しい交通体系への転換

超高齢化社会の進展や地球温暖化の進行に対応するため、過度にクルマに依存した交通体系から、誰もが利用しやすく、環境にも優しい公共交通を中心とした交通体系への転換が求められています。

g 生活圏の広域化を踏まえた都市施設等の分担

生活圏が広域化する中、複数の都市で必要な施設等を分担することにより、地域間での格差是正や都市運営コストの削減が求められています。

h 福井の自然・景観を活かしたまちづくり

長年に渡って継承されてきた、福井県固有の美しい自然や優れた景観を活かし、福井県独自のまちづくりを進めることが求められています。

4. 都市づくりの基本理念

(1) 個性と魅力あふれる都市づくり

平成 16 年の都市計画区域マスタープラン策定以降、各都市において、市町都市計画マスタープランの策定・改定や中心市街地活性化計画の認定など各種計画を進めているものの、人口や産業の県外または国外への流出や中心市街地の衰退に歯止めがかかっていないのが現状です。

これらに対応していくためには、住民が地域への誇りや愛着を深めて住み続けていきたくなるように、また他県の人を訪れ、住みたくなるように、各都市の個性を活かした福井県独自の魅力ある都市づくりが必要です。

このため、長年に渡って継承されてきた美しい景観や伝統産業の優れた技術など地域固有の資源・優位性を活かして、適切な土地利用の規制・誘導や市街地の整備・再構築を行っていきます。

(2) 持続可能な都市づくり（集約型都市構造化）

今後も郊外での宅地開発による営農や自然環境等の悪化が進行することが懸念されます。また、その開発の進行により公共施設の整備や維持管理の負担が増大していくと予想されますが、景気の低迷や人口の減少と少子化があいまって、投資（政策的）の目的で使うことができる財源が乏しくなっており、更にこの傾向が進行するおそれがあります。

これらに対応していくためには、環境・経済（財政等）・社会（コミュニティ等）的に持続可能な都市づくりが必要です。

このため、本県では、各種都市機能の集約化と低密度な市街地の拡大の抑制を図るとともに、積極的に低炭素まちづくり計画等を活用し、市街地の低未利用空間の有効利用、郊外部の拠点機能の維持・向上、公共交通ネットワークの活用により、人口減少、超高齢化の時代にふさわしい、まとまりとメリハリのある集約型都市を目指します。

(3) 都市間の交流・連携を促進する都市づくり

人口の減少や少子高齢社会が到来し、交通弱者の増加や産業の空洞化、地域間格差の拡大、増大し続ける施設維持費など、取り組むべき課題があります。

これらに対応していくためには、都市間の連携を強化し、活発な都市間交流を促進する基盤を築いていく必要があります。

特に、広域交流を活発にする北陸新幹線や中部縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道の整備によるインパクトを県内各地のまちづくりに活かすため、これらの整備を促進するとともに、北陸新幹線からの 2 次交通となる鉄道についても鉄道相互や鉄道とバスの連携を図る等、都市施設の整備・維持を適切に行い、県内の地域連携を促進します。

(4) 安全・安心に住み続けられる都市づくり

老朽化した木造建築物が密集した危険な地域、水害や土砂災害の対策が十分にされていない地域では、防災性の向上が求められています。

また、東日本大震災をはじめとする自然災害の発生等を契機として、単に利便性の高い都市的な住まい方を求めるだけでなく、これまで以上に安全・安心に関する意識、地域コミュニティに関する意識が高まりつつあります。

これらに対応していくためには、必要な都市施設の整備を進めながら、全ての県民が住み慣れた地域で安全に安心して住み続けられる都市づくりが必要です。

このため、河川改修や砂防施設の整備、市街地再開発事業等のハード対策、適切な土地利用の誘導や地域コミュニティのつながりを活かした避難方法の確立などのソフト対策をあわせて防災対策を進め、安全・安心に住み続けられる都市づくりを目指します。












5. 交流・連携を促進する根幹的施設の方針（「都市間の交流・連携を促進する都市づくり」の具体化）

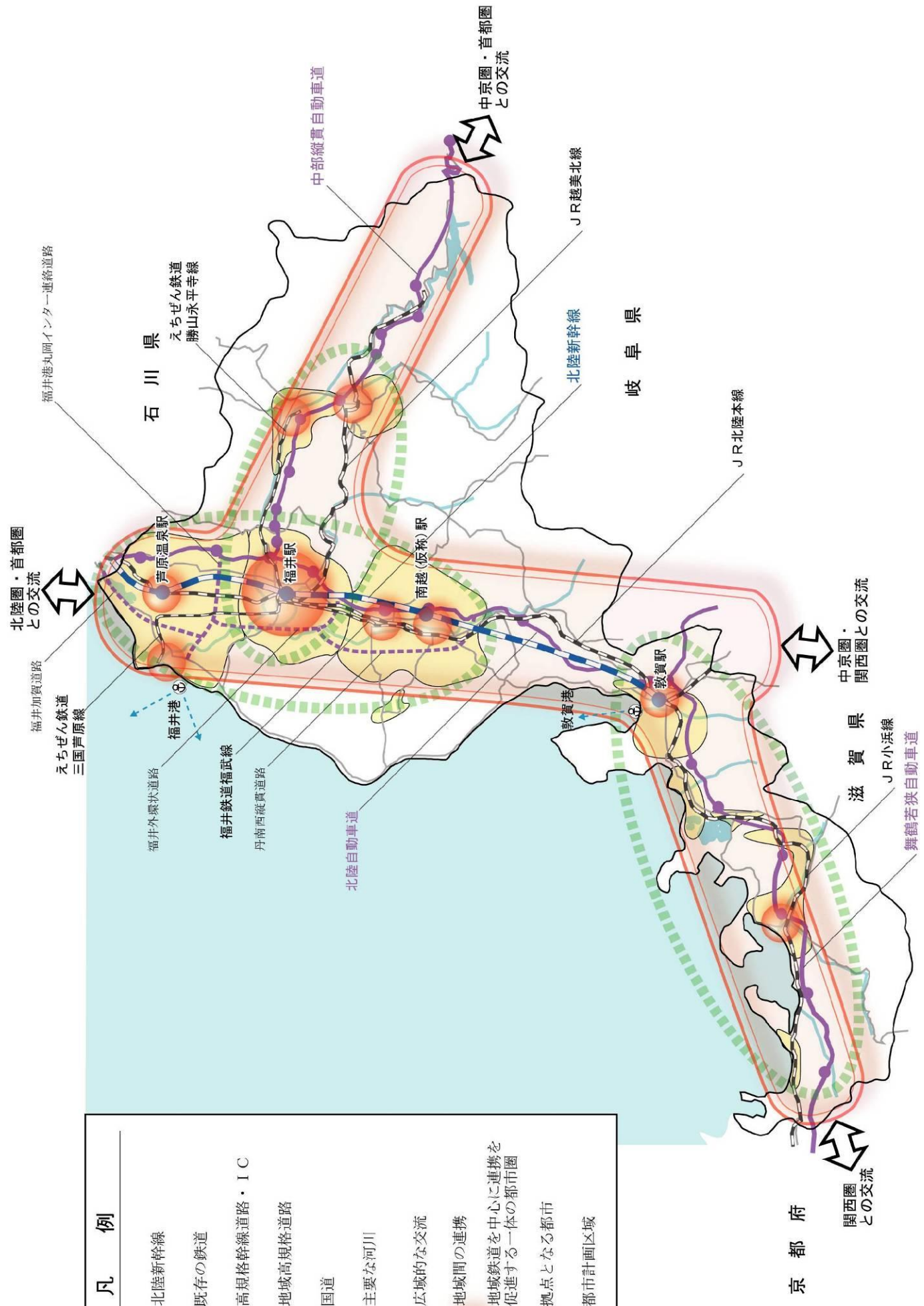
県内各市町が、拠点となる都市を中心としてそれぞれの個性・魅力を高めるとともに、北陸新幹線の整備促進、および既存の公共交通の利便性向上などにより、県域を越えた広域的な交流、県内の地域間の連携を強化することで相乗効果を生み出し、県全体のボトムアップを図ります。

特に、嶺北北部～福井～丹南にかけては、都市計画区域としても連担しており、生活圏の実態としても福井都市計画区域を中心として一体の都市圏を形成しているため、既存の地域鉄道を中心として、地域間の連携を促進します。

根幹的施設		基本方針
広域レベル	北陸新幹線	<ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線の開業により、首都圏をはじめあらゆる方面から人・物の流れが創出され、広域的な交流の活発化、観光客の増加等の経済効果が見込まれるため、日本海側の新たな国土軸として、整備促進を働きかけていきます。 新幹線駅を中心として、都市機能の集積の推進、交通結節機能の強化等により、地域の拠点にふさわしい賑わいの創出、周辺都市からの駅の利便性の向上を図り、より広域的な交流を促進します。
	北陸本線	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線開業後も、県内外の人や物の交流を支える地域交通として、また北陸新幹線の2次交通として、利便性の維持・確保を図ります。
	高規格幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> 中部縦貫自動車道は、福井県と首都圏を最短距離で結び、北陸圏、中京圏、首都圏の広域ネットワークを形成する道路として、早期全線開通を働きかけていきます。 舞鶴若狭自動車道は、関西圏、中京圏、北陸圏の広域ネットワークを形成し、嶺南地方の産業の振興並びに文化交流の促進にも大きく寄与する道路として、地域間交流の活発化、観光客の増加等による嶺南地域の活性化に活用します。
地域レベル	地域高規格道路	<ul style="list-style-type: none"> 広域物流拠点である福井港と北陸自動車道の連結強化を図り、これら施設を核とした産業機能の集積を支援する福井港丸岡インター連絡道路の整備を目指します。 福井市街地を中心とした放射道路相互の交通を連結することにより、市内の渋滞を解消させ交通の円滑化を促進させるとともに福井・嶺北北部都市計画区域間の連携強化を支援する福井外環状道路については、整備を検討します。 福井加賀道路、丹南西縦貫道路については、整備の必要性を検討します。
	地域鉄道	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題や超高齢社会への対応を踏まえ、誰もが利用しやすい環境にも優しい交通手段として、鉄道相互や鉄道とバスの連携等により、利便性の向上を図ります。 特に、嶺北北部～福井～丹南のエリアについては、先導的に公共交通の利便性を高めることで潜在需要を掘り起こし、沿線のまちづくりとの連携、沿線地域の活性化、公共交通を利用しやすい都市構造への誘導を図ります。
	国道	<ul style="list-style-type: none"> 広域的な交流を補完し、地域間の連携強化を図ります。

凡 例

-  北陸新幹線
-  既存の鉄道
-  高規格幹線道路・I C
-  地域高規格道路
-  国道
-  主要な河川
-  広域的な交流
-  地域間の連携
-  地域鉄道を中心に連携を促進する一都市の都市圏
-  拠点となる都市
-  都市計画区域



参考. 都市づくりの基本理念の設定

解決すべき福井県の課題

1. 人口減少・超高齢社会における都市活力の低下
 - ・都市の活力低下、地域社会の衰退
 - ・空き地や空き建物の増加
 - ・既存の都市施設の遊休化
2. 中心市街地の再生の遅れと拡散型都市構造の進展
 - ・中心市街地における人口減少と賑わいの停滞
 - ・商業機能の郊外化
 - ・市街地での買物難民の発生
 - ・公共サービスの効率性の低下
3. 災害の危険性の増大
 - ・密集市街地での防災上の問題
 - ・水害・土砂災害
 - ・災害の危険性のある地域への開発の懸念
4. 都市活動に伴う環境の悪化
 - ・都市的開発に伴う生物多様性の減少
 - ・過度なクルマ利用による渋滞の発生や地球温暖化の進行
5. 地域間での格差拡大
 - ・各市町に自由度・責任が増大するとともに市町間での格差が拡大
 - ・生活圏が広域化し、地域間競争が激化

今後のまちづくりに活かすべき福井県の資源・地域特性

6. 歴史・文化・産業・自然などに立脚した豊かな環境、景観資源が豊富
 - ・国立・国定公園
 - ・名勝、天然記念物
 - ・ラムサール条約湿地
 - ・文化財
 - ・歴史的街並み
 - ・和紙や漆器等の伝統産業が息づく集落
 - ・福井ふるさと百景
7. 国内、アジアにおける地理的な優位性
 - ・北陸新幹線や舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道など高速交通体系の整備進捗
 - ・三大都市圏に近接
 - ・日本海に面しアジア大陸に開かれた位置
8. 地場産業、伝統産業の優れた技術が集積する「ものづくり先進県」
 - ・繊維、眼鏡、和紙、漆器等の分野で工業製品の出荷額が全国1位
 - ・アジアを中心として海外に販路を開拓
9. 健康長寿で暮らしやすい生活環境や都市基盤、人のつながり・絆
 - ・平均寿命（男性）：全国4位、（女性）：11位
 - ・持ち家比率：3位
 - ・持ち家住宅の延べ面積：2位
 - ・三世同居率：2位
 - ・投資的経費の割合：全国1位
 - ・都市公園面積：6位

都市づくりへの要請

- a 暮らしやすさや優れた技術力を活かした地域社会の維持・活性化（8，9に対応）
- b コンパクトで活力のある市街地を中心とする都市構造の構築（2に対応）
- c 災害に強い安全・安心な都市づくりへの対応（3に対応）
- d 計画的な施設の整備と高水準な既存ストックの有効活用（1，9に対応）
- e 地域コミュニティを活かした住民参加、協働によるまちづくり（3，9に対応）
- f 誰もが利用しやすく、環境にも優しい交通体系への転換（1，4に対応）
- g 生活圏の広域化を踏まえた都市施設等の分担（5，7に対応）
- h 福井の自然・景観を活かしたまちづくり（6に対応）

都市づくりの基本理念

1 個性と魅力あふれる都市づくり

長年に渡って継承されてきた美しい景観や伝統産業の優れた技術など地域固有の資源・優位性を活かして、適切な土地利用の規制・誘導や市街地の整備・再構築を行っていきます。

（a，e，hに対応）

2 持続可能な都市づくり（集約型都市構造化）

各種都市機能の集約化と低密度な市街地の拡大の抑制を図るとともに、市街地の低未利用空間の有効利用、郊外部の拠点機能の維持・向上により、人口減少、超高齢化の時代にふさわしい、まとまりとメリハリのある集約型都市を目指します。

（b，d，e，fに対応）

3 都市間の交流・連携を促進する都市づくり

広域交流を活発にする北陸新幹線や中部縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道の整備によるインパクトを県内各地のまちづくりに活かすため、都市施設の整備・維持を適切に行い、県内の地域連携を促進します。

（e，gに対応）

4 安全・安心に住み続けられる都市づくり

河川改修や砂防施設の整備、市街地再開発事業等のハード対策、適切な土地利用の誘導や地域コミュニティのつながりを活かした避難方法の確立などのソフト対策をあわせて防災対策を進め、安全・安心に住み続けられる都市づくりを目指します。

（c，eに対応）

